

かながわ

ユースフォーラム2022

～地域に輪を広げよう～

報告書



「かながわユースフォーラム」とは

かながわユースフォーラムは、大学生が主体的に地域の多様な主体(町内会、商店街、企業、行政など)と協働し、地域課題の解決や活性化に向けた取組を行う協働プロジェクトです。新型コロナウイルス感染症により、授業や学生生活に大きな影響があった中、ユースフォーラム3年目の2022年は念願のリアル開催!「地域に『輪』を拡げる」をテーマに、人と人、人と地域、地域同士のつながりを創出する取組を実践しました。

主催 かながわユースフォーラム実行委員会2022
(神奈川大学社会教育課程 学生有志)



かながわユースフォーラム実行委員長 神奈川大学 社会教育課程／人間科学部 教授 齊藤 ゆか



「かながわユースフォーラム」ってなに？

「かながわ」は、神奈川県・神奈川区・神奈川大学というローカルな共通点。

「ユース=youth」は、若者（大学生・高校生）がターゲット層。

「フォーラム=forum」は、情報交換の場、交流の場、公共的討論の場。

「かながわユースフォーラム」は、ユースが主体となって、ローカルな社会課題に向き合い、実践を介して課題解決の糸口を見つけ、その成果を協議する「若者参画型交流事業」。

こだわりは、「参加」から「参画」に昇華するプロセスを重視すること。ユースの社会参画力を育む。「参加」は行事や会合に加わり、「参画」は計画・立案に加わることを指す。

参加型学習の源流は、パーカーをはじめ、デューイ、フレイレの方法にある。関連として、経験学習、体験学習、共同学習、協働学習など、今日でいう「ワークショップ」を導入。

一人ひとり動機や発意、自発性、経験・体験、グループの力動性を大切にしている。

「The Teaching and Learning Transaction in Higher Education」

（教えること、教えられること、教えと学びが相互に交換しながら学習していくこと）

この試みを、高等教育機関である大学にて、積極的に導入したい。

参画の中核となる学生は、神奈川大学社会教育課程に属するユースが活躍中。実際には、授業「地域デザイン演習Ⅳ」の一環として企画運営力を養う。メンバーは、リーダー型、調和型、大人しくついてくるタイプ、多様な学生がいる。彼らは、各々の身の丈で、精一杯努力し、成長していく。

大人の役割はユースを見守り、伴走すること。若者の「やりたい」を応援・協力すること。

大人は、教員及び地域コーディネーターをはじめ、地域の多様なステークホルダーの方々のご協力を頂いた。ありがとうございます！

【産】六角橋商店街連合会【学】神奈川大学【官】横浜市、横浜市教育委員会【民】神奈川区社会福祉協議会、六角橋地域ケアプラザ、斎藤分町南部町内会、神大寺学童クラブ、近隣中学校、横浜市三ツ沢公園青少年野外活動センター、NPO法人アクションポート横浜、（公財）さわやか福祉財団、（公財）ハーモニイセンターなど。

皆さま、お世話になりました！



小さなアクションは、大きな変革へ。
これらは、SDGsが目指す目標4「質の高い教育をみんなに」、目標11「住み続けられるまち」へつながる。

今後、「かながわユースフォーラム」を持続可能にする連合体を模索中。

ユースをエンパワメントする挑戦を！

これからも、よろしくお願いします。

4年生（高久李美／人間科学部）が作成したロゴマーク ▶



地域デザイン演習Ⅳ担当（横浜キャンパス）

非常勤講師 長浜 洋二 モジョコンサルティング合同会社 代表

「かながわユースフォーラム」を立ち上げてから3年目にしようやく対面開催を実現することができました。学生以上に自分のほうがこの日を待ち侘びていたかもしれません。今回は、昨年、一昨年にフォーラム実施主体であったOB・OGと現4年生もサポーターとして3年生を支えてくれました。まだまだ社会教育課程を中心とした限られた範囲ではありますが、地域づくりや社会課題の解決に不可欠な多世代協働によるエコシステムが着実に構築されつつあります。

こうして年々厚みを増していった先では、一過性のイベントから地域づくりに関わる多様な主体が混じり合うプラットフォームに存在意義も変わっているはず。そんな日が来るのを心から楽しみにしています！



地域デザイン演習Ⅳ担当（みなとみらいキャンパス）

非常勤講師 高城 芳之 NPO法人アクションポート横浜 代表理事



今年もありがとうございました。よかったことは沢山ありますが、三つほど。

一つは対面開催できたこと。参加した皆さんと温度感や雰囲気共有できたことが大きな収穫でした。二つめはみなとみらいキャンパスからも初参戦できたこと。地域性の異なる新しいキャンパスのメンバーを仲間に入れていただき、オール神大でフォーラムを作れたのは大きな一歩でした。そして三つ目は地域の皆さんとの新たな関係性を広げ、これまでの関係性を深められたこと。ご協力いただいた皆様には本当に感謝です。

沢山の学生が地域への一歩を踏み出すきっかけになったと思います。神大から始まる地域とのコミュニティ作り、これからも広げていきましょう。企画学生の皆さん、お疲れ様でした。

かながわユースフォーラム2022

学生代表 田中 英資 法学部法律学科3年

私は新型コロナウイルス蔓延の真っ只中に入学したため、人と交流する機会がなく、実りのない大学生活になるのではという不安を感じていました。そんな中、学生主体であるこの活動に出会い、「多くの学生に活動を知ってもらいたい」「同じ思いを抱く学生へのきっかけ作りを行いたい」という思いで活動しました。そのために学生が本当に行いたいことを調査し、それを実現するために多くの外部の方々にご協力頂きました。この甲斐あって、学生や地域の方々など約200人に参加して頂き、地域内の「『輪』を拡げる」ことの一役を担うことが出来たのではないかと思います。

来年度以降は、より地域課題解決に寄与できる様な更なる発展を願っています。

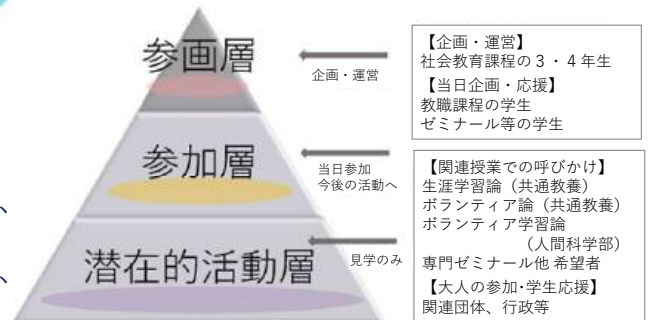
最後になりますが、今年度の活動にご協力頂いた皆様、ご参加頂いた皆様、本当にありがとうございました！



かながわユースフォーラム2022概要

【テーマ】 地域に「輪」を拡げる

社会教育課程「地域デザイン演習Ⅳ」を横浜・みなとみらい各キャンパスで履修する学生が中心となり、「地域で何が課題となっているか」「その解決のために学生に何ができるか」「地域は学生に何を期待しているか」等について議論を重ね、取組を企画・検討・実行しました。これに、ジェンダーや学習支援をテーマに研究・実践を行っている学生も加わり、7月9日（土）、成果を報告するとともに、今後に向けての課題・展望や学びの共有を行いました。



【目的】～実践力に富む人材育成を目指して～

- （1）成長支援：ユース（主に大学生）による社会参画型交流事業の運営実施。学生自らが、主体的に地域・社会課題へチャレンジ（企画・運営・実施）することで「実践的能力」を育む。
- （2）地域社会との交流推進：新型コロナウイルスの影響により失われた、地域における体験・挑戦の機会（地域参画）や、世代を超えた交流、新たな人との出会いやつながりづくりの機会創出を行う。
- （3）潜在的活動層への支援：潜在的な学生ボランティア層に向けて、「地域の未来に何ができるのか」、学生同士が考え、議論し、提案する機会を提供する。

【実践のステップ】

「地域に『輪』を拡げる」をテーマに5つのステップで実践していく

- STEP 1：地域課題の洗い出し（4月）
- STEP 2：地域課題の共有、チーム分け（5月上旬）
- STEP 3：若者ができる地域実践＝具体的なプロジェクトを探る（5月下旬）
- STEP 4：プロジェクトの実行（6～7月）
- STEP 5：プロジェクトの実践内容と成果を、ユースフォーラムで分科会として報告するとともに、次年度に向けて反省点などを共有（7月9日）



町内会って地域コミュニティの核だね。どうすれば学生との接点を作れるかな？

コロナで家にいることが多かった子どもたちの笑顔が見たい！

etc...



【学生参画メンバー】

代表：田中英資（法学部3年） 副代表：久保文乃（外国語学部3年）、大後双葉（人間科学部3年）
3年生：24人
1年生：1人
4年生：6人

学部・学科・学年を超えたメンバーで作りました！



各チーム = 分科会の実践テーマ

分科会①
商店街×地域の子ども・大人 詳しくは 6 ページ

分科会②
子ども×企業 詳しくは 6 ページ

分科会③
町内会×若者 詳しくは 7 ページ

分科会④
子ども×スポーツ 詳しくは 7 ページ

分科会⑤
子ども×エコ 詳しくは 8 ページ

ゲスト分科会の研究・実践テーマ

分科会⑥
ジェンダー×イメージ (荻野佳代子ゼミ)

詳しくは8ページ

分科会⑦
学習支援×大学生 (JIN-KANA学習塾)

詳しくは9ページ

かながわユースフォーラム2022

7/9

- 開催日程 2022年7月9日(土)
- 開催場所 神奈川大学 横浜キャンパス 3号館 3階
- フォーラムの構成

社会教育課程・地域デザイン演習Ⅳの学生による5つの分科会および2つのゲスト分科会による実践報告と、5つの団体によるブース出展

プログラム

13:00 開会式

フォーラム趣旨説明
アイスブレイク など

13:38 分科会の旅へ

第1クール
第2クール
第3クール

参加者は3人1組で興味のある分科会に参加(各20分)。感想をThanksカード、未来に向けた決意をActionカードに記入し、分科会ごとの「振り返りの木」に貼り付ける

15:15 振り返り

各分科会の内容報告

15:55 来場者全員で記念撮影

約200人の学生が参加。
運営スタッフ、ボランティアを含めた合計は274人!

神奈川大学 3号館
3階

ブース出展
(メインホール内)

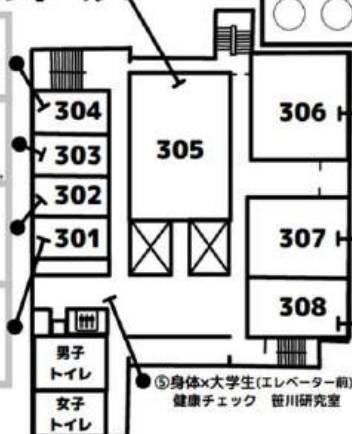
メインホール

子ども×企業
子どもアドベンチャーカレッジという子どものお仕事体験の企画を通して、未来を担う子どもたちと社会を動かす企業が交流をしていくサポートを大学生が行います。

町内会×若者
距離が近い町内会とコラボし、イベントを開催しました。いつもの通学路に新しい出会いを創り、学生と地域の方との間に「橋」を生むのが目的です。

子ども×エコ
私たちは三ツ沢野外活動センターで行う「あったかエコキャンプ」に参加しました。当日行ったアンケートを元に、子どもと関わるニーズに合うイベントについて考えます!

子ども×スポーツ
子どもたちが人と自由に遊んだり、遊んだり、当たり前のことが困難となった現状、大学生という異なる年代とスポーツを通じて交流すること、人と人とのつながりの橋を築くプログラム。



① 学生×ボランティア ①神奈川大学 ボランティア交差点
② 学生×ボランティア ②東海大学 ボランティアグループ
③ 学生×更生保護 ③BBS活動 各種ボランティアサークル等
④ 小田原 x 学生 ④地域活性化・小田原

学習支援×大学生 (JIN-KANA学習塾)
JIN-KANA学習塾は、神奈川大学教職課程に公認された活動です。教師の力を育てること、地域の中学生の学習支援をすることの二つの目的を持っています。活動の仲間を増やしたいと願っています。

商店街×地域の子も大人・大学生
感染症蔓延により、地域の「賑」が寂まり、商店街が通学・通学の場となっていることから、ボーイを介して商店街に来るきっかけ作りや新たな賑がり・発見のあるイベントを開催しました。

ジェンダー×イメージ (荻野研究室)
みなさんは男性が化粧をするのを見て、女性も化粧をしなさいということについて、どのようなイメージを抱きますか? 私たちの分科会ではそのような男女のイメージについて紹介します! ジェンダーについてみんなで話し合いたいです!

⑤ 身体×大学生 (エレベーター前)
健康チェック 笹川研究室



たった数ヶ月でこんなに成長するものかと、学生の持つポテンシャルに目を見張りました!

地域コーディネーター
益田麻衣子(右)、齋藤慎子(左)



- 実施概要 ・日時 2022年6月4日（土）10:50～16:00 ・場所 六角橋商店街
- ・ターゲット 商店街近隣在住の小学生以下の子どもとその親
- ・内容 商店街という身近な場所でポニー乗馬やモルモットふれあい体験ができる動物園を開園した。参加要件としてスタンプラリーを実施することで、訪れた人が商店街を歩き、新たな発見をしてもらう機会とした。

- 参加メンバー 児玉周都、浅野優翔、田中英資、石井和光、高久李美、二岡侑子、中山円茄

- 連携団体 六角橋商店街連合会、(公財)ハーモニセンター、六角橋地域ケアプラザ、神大寺学童クラブ



●実施した成果

親子連れを中心に延べ1,000人以上の来場があった。来場者アンケートでは「このイベントが商店街に来るきっかけになったか」「商店街をまた利用したいと思うか」の問いに90%以上の方が「そう思う」と回答した。

●参加学生代表者のコメント

この活動を通して私は人と話すことがより好きになりました。商店街を活気づけようと始めた企画でしたが、イベント開催の交渉や準備、当日来てくださった人たちとの交流を経て、活気づけられたのは私の方でした。企画を立てることがむずかしいと思う人もいるかも知れませんが、人に感謝して力を合わせることで何事も達成できます。皆さんも一歩踏み出して新しい活動に参加してみてもいいのではないでしょうか！〔児玉〕

●協力してくれた商店街や来場者からのコメント

《商店街》 ・近隣にこんなに子どもがいたのかと驚くほど来場があった。

・子ども向けイベントは保護者が付き添い、賑わうことが発見だった。

《来場者》 ・イベントがきっかけで仲通りを初めて通ったが、おしゃれなお店があつてびっくりした。

- 実施概要 ・日時 2022年6月21日（火）18:00～20:30 ・場所 横浜市役所
- ・ターゲット 子どもアドベンチャーカレッジ（主催：横浜市教育委員会）にボランティア参加する大学生と協力企業・団体等

・内容 子どもアドベンチャーカレッジに参加する大学生同士や、その大学生と子どもアドベンチャーカレッジの企画に関わる会社との仲を深めるための企画をした。主にアイスブレイクを計画し、円滑な交流が出来るよう努めた。

- 参加メンバー 久保文乃、九嶋優貴、椿山祥、高久真衣、辰口凜奈

- 連携団体 横浜市教育委員会、横浜市役所

●実施した成果

楽しく、笑い声も聞こえる時間で、少しでも良いコミュニケーションを築ける時間になったと感じている。

●参加学生代表者のコメント

今回、初めて企画を一から作ることを経験し、とても大変だった。しかしそれ以上の達成感があった。実際の企画が行われているところの想像がつかず、どういった企画だと交流がスムーズになるのかというところを考えるのが一番難しかった。その上で、参加者の方々が楽しそうに、そして円滑な交流が出来る姿を見ることが出来て、今回、短期間で少人数という状況の中で成功出来て挑戦して良かったと思っている。〔久保〕

●横浜市教育委員会からのコメント

若者の視点や発想を取り入れることで、私共の事業もより深みのある楽しいものになると実感しました。ありがとうございました。



- 実施概要 ・日時 2022年6月26日（日）9:00～13:00 ・場所 斎藤分町南部町内及び町内会館
- ・ターゲット 町内のことを知らない町内に住む一人暮らしの学生と通学路として町内を通る学生
- ・内容 地域の方と神大生が気軽に交流できるきっかけを作る事を目的とした。ボウフラの成長抑制剤を散布する「モスキートバスターズ」と地域の方と学生が少人数で対話する事で相互理解を深める「ヒューマンライブラリー」を行った。
- 参加メンバー 大久保遊、絞張美波、池田大樹、大瀧伸星、山崎裕菜
- 連携団体 斎藤分町南部町内会、町内の有志の方々



●実施した成果

当初の予想を大きく超え、学生、OB・OG、町内の方々合わせて41名が参加した。学生同士の交流だけでなく、町内の方と学生の交流が随所で見られ、斎南町の方々と神大生との交流のきっかけを作ることができた。

●参加学生代表者のコメント

企画段階では不安もありましたが、毎週集まる中で解決策を見つけ、町内会の方々とも連絡をとりながら準備を進めました。当日は30度を超える暑さになりましたが、熱中症などもなく最後までイベントをやり遂げることができました。これも、サポートしてくださった町内会の方々や先生方、先輩方、フォーラム学生のみなさんのおかげです。このような交流を今回限りにするのではなく、双方の交流をより深めていければと考えています。〔大久保〕

●協力してくれた大人や参加した学生ボランティアからのコメント

《町内会》・つながりが出来た事が良かった。

・神大の学生さん、素敵ですね！

《学 生》・歩きながら参加者や町内会の方とお話できて楽しかった。

・今後の自分の人生において重要なことを学んだ。



- 実施概要 ・日時 2022年7月2日（土）10:00～12:00 ・場所 ミツ沢公園青少年野外活動センター(体育館)
- ・ターゲット 神大寺学童クラブの児童
- ・内容 子どもへの体験機会の提供、スポーツを通して他学年や他世代との交流を目的として神大寺学童クラブの子どもたちとスポーツ大会を実施した。主に、ボール運びリレーやしっぽ取り、ドッジボールを行った。
- 参加メンバー 柿澤拓夢、阿部直樹、杉山直央、大後双葉、中野未稀、西巻凜、平石美衣奈、高橋侑佑、土屋孝太
- 連携団体 神大寺学童クラブ

●実施した成果

保護者アンケートでは「子どもたちの楽しそうな姿は見られたか」に100%の方が「はい」と回答、「お子様の新たな発見はあったか」「保護者の方も子どもたちと遊んでみたいか」に80%の方が「はい」と回答した。

●参加学生代表者のコメント

初めて学生だけで企画から実施までを行い、貴重な経験になった。スポーツ大会を実施するために対象や連携先、場所を決めること、本番では企画立案や時間配分など、どれも初めての経験で行き詰まることもあった。しかし、スポーツ班の向上心と想像力で、スポーツ大会を成功させることができた。スポーツ大会を通して、学童の方や子どもたちと新しい繋がりができた。スポーツを通して輪をつくることが出来て良かった。〔柿澤〕

●協力してくれた大人や参加してくれた子どもからのコメント

《保護者》・大学生とのびのび遊べるのは大変ありがたく、続けてほしい。

・来る前は「行きたくない」と言っていたが、スポーツ大会が終わると「楽しかった！」と言っていた。

《子ども》・協力できて楽しかった。・久々のイベントで楽しかった。

・勝ちたいという気持ちよりも楽しいがあった。



- 実施概要 ・日時 2022年7月3日（日）10:00～15:00
- ・場所 横浜市三ツ沢公園青少年野外活動センター ・ターゲット 小学生
- ・内容 三ツ沢公園青少年野外活動センターの、ゴミについて学び考える「あったかエコキャンプ」に参加した。研修では子ども目線から意見やアイデアを出し、当日は子ども7人を見守る班付リーダーをした。
- 参加メンバー 竹端晴菜、油科百美、小野榛奈、高森まりや、井上丈一
- 連携団体 横浜市三ツ沢公園青少年野外活動センター

●実施した成果

子ども46名、保護者21名からアンケートを取った結果、子どものやりたいことは、保護者のやらせたいこととそこまで差が無く、保護者は子どもにやりたいこと・好きなことを見つけて欲しいと思っていることが分かった。

●参加学生代表者のコメント

あったかエコキャンプボランティアに班付リーダーとして参加してみて、ワークの補助をしながら、元気いっぱいな子どもたちの安全を確保するのがとても大変だった。しかし、私の班の子はみんな素直で優しい子たちだったので、話していて楽しかったし、積極的にお手伝いをしてくれたり、高学年の子が中心となってワークを進めてくれたり、助け合ったりしていたのでとても温かい気持ちになるイベントだった。〔竹端〕

●横浜市三ツ沢公園青少年野外活動センターの方からのコメント

ユースフォーラムを通じて、地域の活性化には若い力が必要であることを感じました。学生には勉強や部活など多様な選択肢がありますが、神大生が地域に目を向けていることを知り、安心した気持ちになりました。



男性・女性の化粧を通じて ジェンダーについて考えてみよう！

- 実施概要 男性・女性の化粧についての発表やグループディスカッションを通じて、自分と他人のジェンダーのイメージの違いやジェンダーに関する身近な話題を知り、多様性について考えてもらう機会とした。
- 参加メンバー 加能 良哲、菅野 直哉、熊谷 海里、陳 星宇、谷川 明穂、小豆畑 太一、相原 剛、満 欣怡、吉岡 佑馬、劉 揚



●大人アドバイザー

荻野佳代子（神奈川大学 人間科学部教授）

●参加学生代表者のコメント

かながわユースフォーラムを通して、参加していただいた方たちだけでなく、私たちメンバーにとってもジェンダーについて考えるいい機会になったのではないかと思います。ありがたいことに私たちが想定していたよりも多くの方が興味を持ってくださり、様々な意見や感想を多くいただけて嬉しかったです。今回の発表が、ジェンダーのイメージにとらわれずに人とのつながりを築く、そのきっかけになれたのなら何よりの幸せです。〔加能〕

●参加していただいた方々からのコメント

- ・化粧という身近なものを通じてジェンダーを考えるいい機会になった。
- ・自分が気づかずに思っている偏見をなくせるよう幅広い情報を得ていこうと思った。
- ・今回ディスカッションしたことを家族や友人と話し合っていたい。

- 実施概要 ・日程 2022年6月7日（火）より開始 ・場所 神奈川大学 横浜キャンパス
 - ・ターゲット 横浜キャンパス徒歩圏内の中学生
 - ・内容 学校の教室での学びだけでは十分な学習成果が得られない、授業がわからない、学校に行きづらいなど学習に困難を抱える中学生を対象として、主に教員を目指す大学生が学習アドバイザーの指導のもとに、継続的な学習支援のJIN-KANA学習塾を再開しました。
- 参加メンバー 原田颯香、西丸恵吾、長谷川頌
- 大人アドバイザー 鈴木英夫（神奈川大学 特任教授）、佐藤剛（神奈川大学 学習アドバイザー）
- 連携団体 神奈川大学、近隣公立中学校
- 実施した成果

学校の教室では十分に学習成果が得られない子ども、大勢の子どもの中では安心して学びの成果を表現できない子ども、学校に行きづらくなっているが学びを続けたい子どもがいます。そのような中学生たちと、大学生がマンツーマンで子ども一人ひとりの学びの自己肯定感を支えながらの学習支援活動であるJIN-KANA学習塾を2年ぶりに再開しました。学生たちは手探りで活動していますが、子どもの学びを支える先生としての深い眼差しが育っているように思えます。

●参加学生代表者のコメント

JIN-KANA学習塾は、子どもの学びを支えるとともに学生自身のマイペースを大事にするボランティアを目指しています。社会貢献という責任と学生自身のマイペースを大事にするという考え方に多くの反響をいただきました。その後塾生である中学生も少しずつ増加してきたので、JIN-KANA学習塾では学生ボランティアを募集しています。興味のある方ならどなたでも歓迎です。この度は貴重な機会をいただき、ありがとうございました。〔原田〕



学生×更生保護



平塚地区BBS会
更生保護をもっと身近に！という思いで、多くの人にお話してきました！

ブース出展 コーナー

学生×ボランティア



神奈川大学学生ボランティア活動支援室
ボランティア相談を通して、様々な人とお話しすることができて良かったです！！

身体×大学生



健康チェック（笹川研究室）
床反力計を使って、来場者の身体バランス測定を実施しました！

小田原×学生



地域活性化（小田原）実践発表
小田原での下中玉ねぎの実習で得た知識をより多くの人に知って欲しいと思い、下中玉ねぎに関する新聞と動画（劇）を披露しました。

ボランティア×学生



東海大学ボランティアグループ
学生ボランティアグループ（Rain）による活動紹介。神大のボランティア支援室とも交流することができました。

リフレクション



それぞれの「旅」を終えた参加者が、大教室に再度集合。各分科会ごとの「振り返りの木」（各分科会の発表を聞いた参加者が、ThanksカードとActionカードを貼付）をもってリフレクションを共有しました。



Thanksカード

分科会に参加した感想などを記入

企画を実践していくには
想いだけではなしえないと
言うことを知った

自分の住んでいる地域について
改めて考えることができた

地域での活動が、人々の生活に
良い影響を及ぼすことを学んだ

異世代交流の良さだけでなく、苦労した点、
達成感、学生の感想も知れ、
活動が具体的にイメージできた

グループワーク、シンキングタイムがあり、
参加した感があってすごく楽しかった

まずは自分たちが楽しんで
やっているところがすてきです！

Actionカード

未来に向けた決意を記入

企画力や行動力が将来必ず
役に立つと思うので参加してみたい

4Wを考慮して自分から企画を
考える力を身に付けたいと思った

自分は将来的に地域に携わるような仕事を
したいと考えているので、このような活動に
参加してみたいと思った

私たちの世代が中心となって性別に
とらわれない世の中を作っていきたいと思った

個人の悩みに寄り添ってサポートして
いけるようになりたい。
私もボランティアに参加したいと思った

社会教育が楽しいものであることを、
実際に参加することで学び、それを
同世代の人たちに発信していければと思う

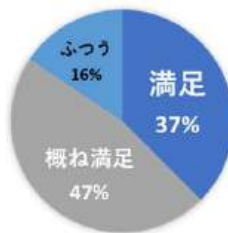
アンケート結果から

Webアンケートの結果 n=32

80%以上が

- ▶満足度で「満足」「概ね満足」と回答
- ▶ボランティアへの関心や意欲が高まったと回答

フォーラム全体の満足度



ボランティアへの 関心や意欲は高まったか



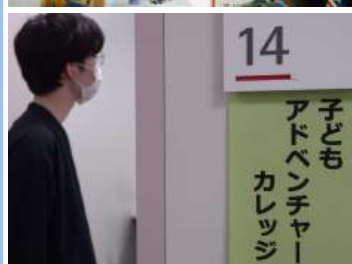
感想

- ★地域交流などを考える活動は普段参加することがないので、いい機会になった。
- ★同じ大学生とは思えないほど、色々なことを考えて行動していて感心した。私も様々なことに挑戦していきたい。
- ★自分の考えを多くの人と共有でき、多様な意見を聞くことができて良かった。
- ★イベントを開催するためには様々な準備が必要で、多くの人の協力によって成り立つものなのだと感じた。少子高齢化が進む中で、このフォーラムのような学生を主体としたイベントを行っていくことはとても重要なことだと感じた。

今後への期待

- ★多くのボランティア活動が存在することを知り、面白そうな企画があれば参加したいと思った。
- ★学生が主体となって企画していて、その内容が良いものばかりだったのですごいと感じた。社会教育課程を履修したいと考えているので、企画力や自分の意見を持ち、それを伝える力を伸ばしていきたいと思った。

写真で振り返るユースフォーラム



CREDIT

主 催

かながわユースフォーラム実行委員会2022

【商店街×地域の子ども・大人】

児玉 周都 (経済学部 3年)
浅野 優翔 (人間科学部 3年)
田中 英資 (法学部 3年)
石井 和光 (法学部 3年)
高久 李美 (人間科学部 4年)
二岡 侑子 (人間科学部 4年)
中山 円茄 (経済学部 1年)

【子ども×企業】

久保 文乃 (外国語学部 3年)
九嶋 優貴 (外国語学部 3年)
椿山 祥 (外国語学部 3年)
高久 真衣 (国際日本学部 3年)
辰口 凜奈 (国際日本学部 3年)

【町内会×若者】

大久保 遊 (法学部 3年)
絞張 美波 (人間科学部 3年)
池田 大樹 (法学部 3年)
大瀧 伸星 (経済学部 3年)
山崎 裕菜 (人間科学部 4年)

【子ども×エコ】

竹端 晴菜 (人間科学部 3年)
油科 百美 (法学部 3年)
小野 榛奈 (人間科学部 3年)
高森 まりや (人間科学部 3年)
井上 丈一 (人間科学部 4年)

【子ども×スポーツ】

柿澤 拓夢 (経済学部 3年)
阿部 直樹 (経済学部 3年)
杉山 直央 (人間科学部 3年)
大後 双葉 (人間科学部 3年)
中野 未稀 (人間科学部 3年)
西巻 凜 (人間科学部 3年)
平石 美衣奈 (人間科学部 3年)
高橋 侑佑 (法学部 4年)
土屋 孝太 (経済学部 4年)

【ジェンダー×イメージ】

加能 良哲 (人間科学部 2年)
菅野 直哉 (人間科学部 2年)
熊谷 海里 (人間科学部 2年)
陳 星宇 (人間科学部 2年)
谷川 明穂 (人間科学部 2年)
小豆畑 太一 (人間科学部 3年)
相原 剛 (人間科学部 3年)
満 欣怡 (人間科学部 3年)
吉岡 佑馬 (人間科学部 3年)
劉 揚 (人間科学部 3年)

【学習支援×大学生

(JIN-KANA学習塾)

原田 颯香 (経済学部 3年)
西丸 恵吾 (人間科学部 3年)
長谷川 頌 (国際日本学部 3年)

アドバイザー

齊藤 ゆか (神奈川大学 社会教育課程/人間科学部)
長浜 洋二 (モジョコンサルティング合同会社 代表)
高城 芳之 (NPO法人アクションポート横浜 代表理事)

荻野 佳代子 (神奈川大学 人間科学部教授)
鈴木 英夫 (神奈川大学 特任教授)
佐藤 剛 (神奈川大学 学習アドバイザー)

益田 麻衣子 (社会教育課程 地域コーディネーター)
齋藤 慎子 (社会教育課程 地域コーディネーター)

報告書編集委員会



小野 榛奈

竹端 晴菜

大後 双葉

協 力

横浜市/横浜市教育委員会/神奈川区社会福祉協議会/六角橋地域ケアプラザ/
六角橋商店街連合会/斎藤分町南部町内会/神大寺学童クラブ/近隣中学校/
横浜市三ツ沢公園青少年野外活動センター/NPO法人アクションポート横浜/
(公財)さわやか福祉財団/(公財)ハーモニセンター

.....
平塚地区BBS会/東海大学ボランティアグループRain

発行 2022年12月

かながわユースフォーラム実行委員会2022 (神奈川大学 社会教育課程)

※この冊子は、横浜市神奈川区の「かながわ地域支援補助金」を活用して作成しました。